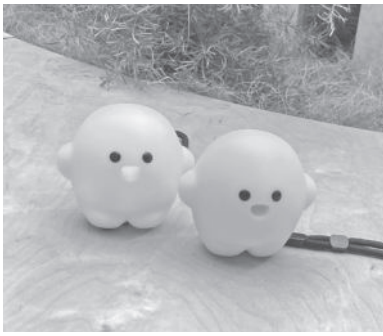
「Die Brücke 架け橋」第742号 令和７年６月１日発行（隔月刊）公益財団法人日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft

Die Brücke 架け橋

日独協会機関誌



2025 6

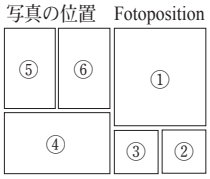
表紙

2025 大阪・関西万博

①ドイツ館全景

大屋根リングから見たドイツ館のほぼ全景です。左奥の建物がパビリオンの本館で、ドイツ館の展示のタイトルの「わ！ドイツ」が見えます。手前の建物はレストラン、初日は本館にも相当多くの人が並んでいましたが、レストランの方はそれを上回る人気で、長蛇の列ができていました。

写真の位置　Fotoposition



②音声ガイドを兼ねるマスコット

ドイツ館のコンセプトの一つが「かわいい」で、このコンセプトに基づいたマスコットが本館内での音声ガイドとしても使われています。直径 10㎝くらいでしょうか。本館入口で入館者全員に手渡され、出口で返却します。

③ドイツ館を訪れた指揮者の佐渡裕さん

初日の朝、万博会場で「１万人の第九」を指揮された佐渡裕さんが、直後にドイツ館を訪問されました。敷地内のステージでインタビューを受けておられるところです。

④１万人の第九

万博初日の朝、佐渡裕さん指揮で『１万人の第九』が演奏されました（ただし、第４楽章のみ）。会場は大屋根リングの海に近い部分で、オーケストラは水際の屋根付きの建物で演奏しましたが、ほとんどの合唱の人たちは屋外となり、雨に備えて、万博公式マスコット「ミャクミャク」の色の赤と青、及びグレーのポンチョを着用していました。

⑤ドイツ館キャラクター

ドイツ館の前で来訪者を迎えてくれるキャラクター。一つはベートーヴェン、もう一つは赤ずきんちゃんでしょうか。多くの方がキャラクターとともに記念撮影をしていました。

⑥ドイツ館本館入口

小雨の中、小一時間ほど並んで、ようやく本館の入口にたどり着きました。ドイツ館のテーマは循環経済ということであり、万博を所管するハーベック経済・気候保護大臣（緑の党）（当時）の考えが反映されたと言われています。

八木 毅（日独協会 副会長）

Titelbild

Expo 2025 Osaka, Kansai

(1) Panoramablick auf den Deutschen Pavillon

Dies ist eine nahezu vollständige Ansicht des Deutschen Pavillons vom Großdachring aus. Das Gebäude links hinten bildet das Hauptgebäude, auf welchem der Titel der Ausstellung des Pavillons, „Wa! Deutschland“ zu sehen ist. Das Gebäude im Vordergrund ist das Restaurant. Am Eröffnungstag warteten viele Besucher vor dem Hauptpavillon, das Restaurant jedoch war noch beliebter und es bildete sich eine lange Schlange.

(2) Maskottchen, das auch als Audioguide dient

Eines der Konzepte des Deutschen Pavillons ist „niedlich“, und das Maskottchen, welches auf diesem Konzept basiert, wird auch als Audioguide eingesetzt. Es hat einen Durchmesser von etwa 10 cm. Alle Besucher erhalten das Maskottchen am Eingang und geben es beim Verlassen des Pavillons zurück.

(3) Der Dirigent Yutaka Sado besucht den Deutschen Pavillon

Am Morgen des ersten Tages besuchte Yutaka Sado, der auf dem Expo-Gelände die „Neunte Symphonie der 10.000“ dirigierte, unmittelbar danach den Deutschen Pavillon. Hier sieht man ihn beim Interview auf der Bühne des Deutschen Pavillons.

(4) Neunte Symphonie für 10.000 Menschen

Am Morgen des Eröffnungstages sangen 10.000 Menschen unter der Leitung von Yutaka Sado Beethovens Neunte Symphonie (allerdings nur den vierten Satz). Die Veranstaltung fand im meeresnahen Bereich des großen Dachrings statt. Während das Orchester in einem überdachten Gebäude am Wasser spielte, sang der Großteil des Chors im Freien und trug für den Fall von Regen rote, blaue und graue Ponchos - die Farben des offiziellen Expo-Maskottchens Myaku-myaku.

(5) Die Figuren des Deutschen Pavillons

Figuren begrüßen die Besucher vor dem Deutschen Pavillon. Hier zu sehen sind Beethoven und Rotkäppchen, mit denen viele Besucher als Andenken Fotos machten.

(6) Eingang zum Hauptgebäude des Deutschen Pavillons

Nachdem wir etwa eine Stunde bei leichtem Regen in der Schlange gestanden hatten, erreichten wir endlich den Eingang zum Hauptpavillon. Das Thema des Deutschen Pavillons ist die Kreislaufwirtschaft, welche die Ideen des damaligen Ministers für Wirtschaft und Klimaschutz, Herrn Habeck (Die Grünen), widerspiegeln soll, der für die Expo verantwortlich war.

Takeshi Yagi (Vizepräsident der JDG)

目　次　　ページ／Seite　　INHALT

4 月の協会活動報告	1	**JDG-Aktivitäten im April**	
2025 年度全国日独協会連合会総会開催報告 森 宏之	3	**Bericht zur Verbandstagung der Japanisch-Deutschen Gesellschaften 2025**	Hiroyuki Mori
2024 年度全国日独協会連合会収支報告書、2025 年度全国日独協会連合会予算／ベルリン宣言	4	**Finanzbericht und Budget des Verbandes der JDGen / Berlin Resolution**	
東西ドイツ統一 35 周年記念 特別企画 大阪・関西万博開催記念 特別企画	6	**J35. Jubiläum der Wiedervereinigung von Ost- und Westdeutschland: Sonderprogramm Anlässlich der Osaka-Kansai Expo: Sonderprogramm**	
ベルリナー・ルフト Dr. ヴェレーナ・マテルナ	7	**Berliner Luft**	Dr. Verena Materna
ドイツの大学が変貌している ードイツの大学制度改革と高等教育のユニバーサル化ー（前編） 佐藤 勝彦	8	**Die Universalisierung der Hochschulbildung und die Reform des Hochschulsystems (1)**	Katsuhiko Sato
ドイツ経済の動き 第 93 回 伊﨑 捷治	9	**Tendenz der deutschen Wirtschaft (93)**	Shoji Isaki
「青梅・ボッパルト友好協会」の紹介 長谷川 智一	10	**Freundeskreis Ome-Boppard**	Tomokazu Hasegawa
文化の玉手箱　映画『見えるもの、その先に ーヒルマ・アフ・クリントの世界』 小林 さと子		**Kulturkiste: Film „JENSEITS DES SICHTBAREN - Hilma af Klint“**	Satoko Kobayashi
セルマモリ（研修生コラム） 「たくさんの国にある私の故郷」 セルマ・バーナート	11	**SELMAMORI Selma’s Omamori „Vielerorts daheim“**	Selma Bannert
コラム：驚いてン Sie!? 鎌田タベア	12	**Kolumne „Odoroiten Sie!?“**	Tabea Kamada
お知らせ 事務局	13	**Informationen**	Sekretariat der JDG

花見

3/30(日)　12:30 ～ 15:30　練馬区光が丘公園

Hanami

Datum: So., 30. 3. 25, 12.30-15.30 Ort: Nerima-Hikarigaoka Park

参加者は30名程度。コロナ禍もあり、花見を開催するのは5年ぶりとなりました。当初は3月29日土曜日に開催予定でしたが、雨天により翌日30日に延期。当日は前日の雨が嘘のように、太陽の光がふりそそぐ花見日和となりました。会場となった光が丘公園ではちょうど「チェリーブラッサムフェスタ」が開催されており、様々な食べ物ブースだけでなく、歌や踊りなどのパフォーマンスも行われていて、たくさんの花見客でにぎわっていました。公園は広大なので、スタッフが開始時間前に場所を決め、スマートフォンで場所の詳細をウェブサイトに投稿、また、会場までの行き方を動画で撮影して協会Instagramに投稿してお知らせしました。協会の目印となるドイツ国旗を木に巻き付けたり、レジャーシートで場所を確保したりしていると、早速参加者が集まり始めました。

開催日が変更になったにもかかわらず、会員やドイツ語講座の参加者、協会のSNS投稿を見てきてくださった方、久しぶりに様子を見に訪れた古くからの会員の方々など、たくさんの方にお越しいただきました。

ドイツ留学に興味を持っている方や、ドイツ人の友人と来られた方、1週間前から日本に住み始めたというドイツの方や、4月から東京で仕事を始めるという方もいて、様々な情報交換の場所ともなっていました。

研修生のエリザベトさんのパスタサラダ、昨年の研修生フロリアンさんの稲荷ずし、スタッフのおにぎりなどの手作り料理に加え、お菓子や唐揚げ、ワインや日本酒が並びました。途中からは、フロリアンさんの三味線の演奏も始まり、心地よい日差しの中、三味線の音色を聞きながらのとても素敵な花見となりました。

ご参加いただいた皆さん、楽しい時間をありがとうございました！

ドイツ語講習会
2025年度上半期コース

火～日曜日

Deutschkurse in der JDG, April - September 2025

jeden Di.-So.

ドイツ時事問題研究会 第109回

4/19(土)　15:00 ～ 17:00

Studiengruppe “Deutschland aktuell” (109)

Datum: Sa., 19. 4. 25, 15.00-17.00

4月の主なトピックスは、① CDU/CSUとSPDが連立協定で合意、新政権樹立へ、②債務ブレーキの緩和による国防費の増額および経済対策の強化、③米国が自動運転技術等でドイツ企業との協力に関心、④ライプツィヒBook見本市、ハノーバー産業見本市の開催、⑤Unionの支持率が低下、AfDと並ぶ、⑥労組が8%を求めた公共部門の労使交渉が3%、2.8%の賃上げなどで妥結などについて背景や経緯などを報告し、質疑応答を行った。

「今月のテーマ」では「新連邦議会の構成」および「SNSが若年層の投票に及ぼす影響」をとりあげた。後者では、世話人の伊崎が、若者の間で右翼・左翼政党へ投票がとくに多かったことを示すデータを参照しつつ、ポピュリスト政党の挑発的あるいは過激な発言がSNSを通じて若者の間で拡散した状況を分析したFAZ紙の記事を紹介し、活発な議論を交わした。　（伊﨑 捷治）

シュプラッハトレッフ（日独言語交換会）

4/19(土)　19:00 ～ 20:40

Sprachtreff

Datum: Sa., 19. 4. 25, 19.00-20.40

研修生として私の最初のSprachtreff ―うまくいきました！

4月のSprachtreffはちょうどイースターの週末にあたったため、テーマはイースターになりました。そのうえで、桜もこの時期には欠かせないものです。

日本人の方は、特にイースターの、人それぞれの習慣や地元の特別な料理に興味を持っていました。ドイツ人参加者は、桜が見られる有名な場所について質問し、次回の日本旅行のおすすめを教えてもらっていました。

今回は、ドイツ人は日本語上級者が多いのに対して、日本人はドイツ語初級者が多いという、グループ分けが困難な状況でした。それでも、素晴らしいモデレーター、そして何より積極的な参加者のおかげで、交流や対話が面白くなり、参加者の皆さんも

満足している様子だったので、嬉しかったです。
皆さん、次の Sprachtreff で会いましょう！私も待ち遠しいです。　（セルマ・バーナート）

独逸塾
4/21(月)　19:00 ～ 21:00
Gesprächskreis: Neuigkeiten aus Deutschland
Datum: Mo., 21. 4. 25, 19.00-21.00
参加者 17 名。
1．テキスト：2025 年 1 月 4 日シュピーゲル誌の記事 Der Obertroll（ネット荒らし）
1）イーロン・マスクが AfD への支持を明確にしドイツ政府を攻撃、ショルツ首相を無能な愚か者と呼び対立している。さらにマスクは選挙にも介入。X を使いドイツ政府を中傷し AfD を支援。さらに彼は言葉だけでなく、英国の右翼政党に 1 億ドルを X の支社を通じて拠出。ドイツで AfD を支援する「法治国家と市民の自由を維持するための協会」に対してもマスクは広告宣伝費を拠出し、法令違反となる政党への直接献金を避けた。
2）ドイツ政府の対応
2022 年 EU で制定した Digital Services Act に違反するとして X をヘイトスピーチおよび偽情報流布であると訴えたが米国政府から NATO への協力に影響すると圧力を受けた。
3）マスクは Pepe（カエルのキャラクター）のプロフィール画像を使うことで自ら右翼側のネット荒らしの象徴のような立場になっている。
2．テキスト：2025 年 2 月 26 日Österreichischer Rundfunk より„Clean“ statt „green“, EU-Industrie soll aus Krise gefördert werden の記事
1）Green Deal から Clean Deal の考えが出てきた背景。2050 年までの EU 域内の温室効果ガス排出を実質ゼロ（カーボンニュートラル）にすることの見直しが、一部の政治家や産業界から出てきている。コロナ危機、ウクライナ戦争等によるエネルギー価格の高騰、雇用喪失、社会不安が背景にある。カーボンニュートラルでなく実行可能なクリーン移行。手法として水素、ガスも容認 CO^2 の削減は 2030 年まで約 40％とする。この問題を進めるため資金調達が必要で年間 4,800 億ユーロが必要となる。
ドイツ語の表現をめぐり活発な議論が交わされた。
（森永 成一郎）

懇談会サロン
テーマ：トランプ就任後のヨーロッパの地政学的リスクの高まり・ウクライナ戦争の大きな転換期
4/28(月)　18:00 ～ 19:30　日独協会セミナールーム
Gesprächssalon
Thema: Erhöhte geopolitische Risiken in Europa nach dem Antritt Trumps und eine wichtige Wende im Krieg in der Ukraine
Datum: Mo., 28. 4. 25, 18.00-19.30 Ort: Seminarraum der JDG
講師：熊谷 徹 氏（在独ジャーナリスト、元 NHK ワシントン特派員）

ロシアのウクライナ侵攻は、第二次世界大戦後、欧州の地政学的な座標軸を最も根本的に変えた出来事の一つ。第二次世界大戦後の常識だった座標軸が通用しない時代の到来。欧州はトランプ 2.0 により、米国に対する信頼感を失った。
(1) 欧州連合も様々な規制により、間接的に保護主義的な傾向を強める。
(2) 2025 年連邦議会選挙で、保守中道政党が首位に。ただし目標の 30％には達せず。
(3) 極右政党と極左政党への支持率が上昇し、SPD と緑の党、FDP は惨敗。
(4) メルツ次期政権が財政政策を大転換。債務ブレーキを変更へ。
(5) 産業界はメルツ提案を歓迎。兵器メーカーの株価が高騰。
(6) 欧州諸国にとって、ウクライナの意向を無視した停戦交渉はあり得ない。
(7) メルケル元首相の回顧録「自由」を公表。ウクライナの NATO 加盟を拒否した理由を説明。
(8) 欧州諸国は、「米国が欧州への関与を減らす事態」に備えた準備を開始。
(9) 2024 年 11 月、ドイツ政府は兵役義務の為の準備開始を閣議決定。世論調査によると、回答者の過半数が兵役義務の復活に賛成。
(10) 2029 年連邦議会選挙では AfD が首位に立つ可能性も。CDU・CSU と AfD の得票差が、総選挙ごとに狭まっている。2025 年連邦議会選挙が東西ドイツの分断を浮き彫りにした。未だに旧東ドイツへの差別意識と不満が根強い。

講演中の熊谷氏

講演後 1 時間近く質疑応答があり、参加者の関心の高さがうかがえた。席も満席で、参加者の感想も大変好評であった。　（木田 宏海）

※会場が書かれていないイベントはオンラインで開催されました。

2025 年度全国日独協会連合会総会開催報告

森 宏之（日独協会理事）

4 月 25 日（金）、本年度の全国日独協会連合会総会が㈱日立製作所様の大森の会議室にて開催され、全国 22 協会＋１団体、計 58 名が一堂に会しました。前日の 24 日（木）夕には前夜祭が青山のドイツレストラン Mahlzeit（OAG ハウス１階）を借り切って行われ、18 名の参加者が楽しく懇談しました。

25 日の総会は午前 10 時に始まり、まず主催者を代表して東原会長が挨拶、続いて来賓のマルティン・フート駐日ドイツ大使館首席公使が、またビデオメッセージを通じフォルカー・シュタンツェル独日協会連合会会長が挨拶をされました。それぞれの挨拶からは、現在の極めて不安定な国際情勢の中で、日本とドイツが共通の価値観のもと共に手を携えていくこと、及び私達市民レベルで交流を深めていくことがとても重要であることが理解できました。

続いて総会決議事項の審議、報告事項の説明に移り、①連合会会長代行の再任（八木会長代行）、②新会員の承認（青梅・ボッパルト友好協会）、③ 2024 年度決算案の承認と監査報告、④ 2025 年度予算案について、それぞれ全会一致で承認されました。更に①副会長人事（仙台日独協会末岡会長の連合会副会長就任）、②「日独パートナーシップデイズ 2024」と「ベルリン宣言」について、③ 2026 年度連合会総会開催地について、の各項目が報告され、特に「日独パートナーシップデイズ 2024」の説明では最初に当日のビデオ映像が流されたことから、現地の様子が参加者によく伝わったようでした。

昼食を挟んで各地域の日独協会活動報告が北から順番に行われました。各地において活発な日独交流やドイツ関連のイベントが行われていることに加え、近隣の協会どうしの連携や、オンラインでドイツとつないでの新たな試み、そして「若い世代をどう協会にひきつけるか」といった多くの協会に共通する悩みについても情報共有されました。

続いて総会の報告事項でもあった「日独パートナーシップデイズ 2024」と「ベルリン宣言」について、このイベントに実際に参加した髙山フロリアンさんがご自身の感想を織り交ぜて報告してくれました。またこれに参加した若者を主体とするワーキンググループ「日独どこに」が、今後の友好の輪を広げるために立ち上がっているとの頼もしい報告がありました。

総会プログラムを締めくくったのは、テレビでよくお見掛けする NHK 専門解説委員二村伸氏による基調講演。「ドイツ新政権発足へ」と題し、転換期を迎えたドイツの今後の政治経済動向と、自国第一主義のトランプ米大統領とどう対峙していくかについて、イラスト入りのスライドを使って分かり易く解説頂きました。講演後、メルツ次期ドイツ首相の党内掌握力、欧州内でのリーダーシップについて活発な質疑応答が行われました。

16 時半に総会終了後、場所を日立製作所様の厚生施設「日立目白クラブ」に変えて懇親会が開催されました。駐日ドイツ大使館のフート首席公使のご列席のもと、八木会長代行の挨拶、フート首席公使の乾杯の発声に続きビュッフェがオープン、約 50 名の参加者が美味しい料理を頂きながら各地の協会間の懇親を深める良い機会となりました。

全国から 23 団体が集った 2025 年度の年次総会

東原会長

フート首席公使

二村伸氏による基調講演

懇親会にて、左からフート公使、柳大使、八木会長

和やかに歓談する参加者の皆さま

資料①

2024年度全国日独協会連合会収支報告書

（2024年4月1日～ 2025年3月31日）

前期繰越運転資金	1,066,486		
		公財）日独協会2024年度分事務委託料	500,000
2024年度会費納入額 40協会	775,000		
		2024年度独日協会総会参加旅費補助	87,400
連合会記念事業積立金（2019 ～ 2023年度分）取崩し	250,000	2024年度独日協会総会参加旅費一部補助	100,000
		※八木会長代行	0
		若者支援事業等半	250,000
		2022年度連合会記念事業積立金	50,000
普通預金利息	422		
		出張旅費	0
		その他（ゆうちょ銀行手数料等）	3,410
		次期繰越運転資金	1,101,098
収入計	2,091,908	支出計	2,091,908

資料②

2025年度全国日独協会連合会予算

【収入】		【支出】	
前期繰越運転資金	1,101,098	日独協会 2025年度分事務委託料	500,000
2025年度会費見込み 40協会	755,000	2025年度連合会記念事業積立金	50,000
		2025年度独日協会総会参加旅費補助	150,000
		その他（慶弔電報等）	50,000
		交通費補助	50,000
		次期繰越運転資金	1,076,098
	1,876,098		1,876,098

「独日パートナーシップデイズ 2024」を機に「ベルリン宣言」が作成され、今年 2 月 6 日に独日協会連合会シュタンツェル会長、日独協会連合会東原会長の調印に至りました。連合会総会でも報告された宣言の全文をここに公表いたします。

「ベルリン宣言」

独日協会連合会（VDJG）・全国日独協会連合会（VJDG）共同声明

（2024 年 10 月 10 日～ 13 日（日独パートナーシップデイズ）於：ベルリン）

ドイツと日本には重要な共通点がある。両国は自由と民主主義に基づく社会秩序を発展させ、社会政策によって補完された強靭な市場経済をともなう自由主義的経済体制を繁栄の基礎としている。同時に両国は危機に直面している。現代社会の変化が突きつける諸問題と格闘するなかで、経済は柔軟な適応と回復の能力を失いつつあり、グローバルな力の移行により、我々の国家安全保障の継続性はその根本から揺らいでいる。かかる状況の下、日独の結束と協力関係のさらなる強化が必要不可欠となっている。日独・独日両協会は、市民社会のレベルにおいて、その関係強化に貢献している。

近年までの我々の目標は「多様性 ―ネットワーキング― 持続可能性」を旨とする 2018 年の「金沢宣言」に成文化されている。我々は今日、それを出発点とし、パンデミック後の新たな情勢を踏まえてさらにその先へと進むべく、以下の諸目標とその実現の道筋に合意した。

1. 時代は転換しつつある。諸協会および両連合会間の対話を通じて、我々は協会活動をその転換に即した形で発展させたいと望む。そのために、我々は次の点について相互に具体的ビジョンならびに構想を提示し、意見交換を重ねる。
   - 日独友好の重要性が高まっている好機をとらえ、その重要性を目に見える形で示すべく、我々の協会および連合会は、各々の国の社会的議論に対して、いかにしてより効果的に働きかけることが可能か。
   - 例えば、芸術、文化、学問研究等の分野において、そのための、いかなる糸口が見いだされるか。
   - 両国間の政治的連携と安全保障協力の強化は、我々の協会活動に対して、いかなる意味を持つか。
2. 我々は、市民社会のあらゆる領域に働きかけ、我々に対する関心を呼び起こしたいと考える。その対象には、数十年の長きに渡り日独交流に携わってきた人々、様々な分野の専門家、そしてとりわけ、極めて多様な形で社会的に活動している若い世代が含まれる。
   - 若い世代を協会活動に呼びこみ、彼らの長期的な参加を促すべく、我々は人的交流に加え、より自由な形の協力関係を模索したい。
   - ドイツ語ないし日本語の授業を実施している中学校や高等学校、ギムナジウム、大学等の教育機関、ならびに国および地方自治体の行政機関との連携強化を通じた、ドイツおよび日本における、若者の職業上のキャリア形成の機会拡大が望まれる。
   - それに加え、若者のキャリア形成支援に向けた助言の提供が望まれる。キャリア相談の実施、ならびにインターンシップ先および企業関係者との交流機会の紹介が望まれる。
   - 我々は、相手の文化圏の人々をより多く協会に呼び込み、より効果的な働きかけを通じて彼らの関心を呼び起こしたいと考える。
   - 我々は、共通のプラットフォームの活用により、広報活動の技術と手段の幅を広げ、団体としての存在感を高めたいと考える。

3. 協力関係の範囲を広げ、とりわけ文化、音楽、芸術および技術の分野における新たな交流をうながす。具体的には、人工知能から人口動態の変化にまで及ぶ、新たに生じつつある重要な社会的課題に対して、協力して取り組みを進める。
   - 社会、経済および政治の分野で活動する外部の諸機関および諸団体、地方自治体との協力関係の拡大が望まれる。
   - つねに進化を続けるデジタル技術がもたらす手段を積極的に活用し、我々はローカルとグローバル双方のレベルで、実り多い意見交換をうながしたい。それに伴い、共通のオンライン・プラットフォームの利用を検討する。
4. 各協会の状況を考慮するとともに、相互に協力しつつ、我々は会員と提携団体のさらなる増加を目指す。遅くとも 2027 年の年次総会を目途に、若手会員の協力の下、会員数の増加に向けた基本構想を立案する。その内容に基づき、我々は対策を立て、試験的に実行に移し、双方の年次総会の場でその結果を吟味する。
5. 独日協会連合と全国日独協会連合会は、次回のパートナーシップデイズの日程と開催場所に関して協議する。

„Berlin-Resolution“

Erklärung der Deutsch-Japanischen und der Japanisch-Deutschen Gesellschaften
anlässlich ihrer Partnerschaftstage in Berlin vom 10. bis 13. Oktober 2024

Deutschland und Japan weisen bedeutende Gemeinsamkeiten auf: Beide Länder entwickeln ihre freie und demokratische Gesellschaftsordnung fort; ihre liberale Wirtschaftsordnung mit starker sozialer Marktwirtschaft ist die Grundlage ihres Wohlstands. Zugleich erleben wir Gefährdungen: die mit Modernisierungsproblemen ringende Wirtschaft verliert an Resilienz, die Dauerhaftigkeit unserer Sicherheit wird durch globale Verschiebungen zerrüttet. Hier ist es notwendig, zusammenzuhalten und noch intensiver zusammenzuarbeiten. Auf zivilgesellschaftlicher Ebene leisten dazu die Japanisch-Deutschen und Deutsch-Japanischen Gesellschaften ihren Beitrag.

Unsere Zielsetzungen hat im Jahr 2018 für die letzten Jahre die Kanazawa-Resolution unter dem Motto „Vielfalt – Vernetzung – Nachhaltigkeit“ festgehalten. Darauf aufbauend verständigen wir uns heute, unter anderen Umständen und nach der Pandemie, auf die folgenden Vorgehensweisen und Ziele.

1. Die Zeiten wenden sich. Dementsprechend wollen wir im Dialog von Gesellschaften und den beiden Dachverbänden unsere Arbeit fortentwickeln. Hierzu werden wir konkrete Vorstellungen und Vorschläge miteinander austauschen:
   - Wie können unsere Vereinigungen und Dachverbände besser in die jeweiligen gesellschaftlichen Diskussionen in unseren Ländern einwirken, um die gestiegene Bedeutung der deutsch-japanischen Freundschaft zu nutzen und sichtbar zu machen.
   - Welche Anknüpfungspunkte dafür gibt es z. B. in den Bereichen Kunst und Kultur, Wissenschaft und Forschung.
   - Was bedeutet die verstärkte politische und sicherheitspolitische Zusammenarbeit zwischen unseren Ländern für unsere Arbeit.
2. Wir wollen alle Teile unserer Zivilgesellschaften ansprechen: seit Jahrzehnten mit den deutsch-japanischen Beziehungen befasste Bürgerinnen und Bürger, professionell in unterschiedlichen Bereichen tätige Menschen, und ganz besonders die so vielfältig engagierten jüngeren Generationen.
   - Um die jungen Menschen in die Arbeit unserer Gesellschaften einzubeziehen und langfristig an sie zu binden, wollen wir neben dem Austausch von Personen Formate der freien Zusammenarbeit prüfen.
   - Die Zusammenarbeit mit Bildungseinrichtungen wie Gymnasien und Universitäten, die japanische bzw. deutsche Sprachkurse anbieten, sowie mit staatlichen und kommunalen Stellen sollte verstärken werden, um die Möglichkeiten für junge Menschen zu erweitern, sich in Deutschland und Japan beruflich zu entwickeln.
   - Darüber hinaus sollten Beratungsangebote erfolgen, um junge Menschen in ihrer beruflichen Entwicklung zu unterstützen. Hierfür sollte man Berufsberatung anbieten sowie Praktika und Vernetzungsmöglichkeiten vorstellen.
   - Wir wollen die Menschen des jeweils anderen Kulturkreises besser einbinden und gezielter ansprechen.
   - Wir wollen unseren technischen Werkzeugkasten durch die Nutzung einer gemeinsamen Plattform für eine bessere Präsenz in der Öffentlichkeitsarbeit ergänzen.
3. Unsere Zusammenarbeit wird sich besonders ausweiten auf die Förderung neuer Kontakte im kulturellen, musikalischen, künstlerischen und technischen Bereich; Zusammenarbeit im Umgang mit den großen neuen gesellschaftlichen Fragen – von Künstlicher Intelligenz bis zum demografischen Wandel.
   - Die Kooperation mit außenstehenden Einrichtungen der Gesellschaft, Wirtschaft und Politik sowie den Kommunen sollen ausgeweitet werden.
   - Unter aktiver Nutzung der immer weiter fortschreitenden digitalen Möglichkeiten wollen wir einen fruchtbaren lokalen und globalen Ideenaustausch fördern. In diesem Zusammenhang prüfen wir die Verwendung von gemeinsamen Online-Foren.
4. Unter Berücksichtigung der Lage der Gesellschaften und in Zusammenarbeit mit ihnen wollen wir die Zahl unserer Mitglieder und Partner weiter steigern und werden spätestens bis zu unseren Jahrestagungen 2027 gemeinsam mit jungen Mitgliedern ein Konzept dafür entwerfen. Wir werden Maßnahmen entwickeln, erproben und an unseren Jahrestagungen evaluieren.
5. Beide Verbände werden sich über Datum und Ort der nächsten Partnerschaftstage miteinander verständigen.